

ACTION PLAN 2016

【2016年～2021年】

2017年度成果報告書



国立大学法人

宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY



ここに、「**ACTION PLAN 2016** 2017年度成果報告書」を公表いたします。
一昨年、第3期中期目標・中期計画のスタートにあたり、宇都宮大学は、6年間重点的に取り組む内容について4つのVisionを掲げ、これを達成するための方策を、5つの重点戦略と12の取組(A~L)にまとめ、機能強化の取組構想としました(右頁参照)。そして、これを大学の内外の方々に知っていただくために **ACTION PLAN 2016**【2016年~2021年】を公表しました。本報告書は、プランに掲げた各取組の2年間の進捗状況を示したうえで、2017年度の特徴的な取組・成果を中心にまとめたものです。

戦略毎の主な成果を以下にお示しますが、十分に取組めなかったものが一部にあるものの、全体としては概ね順調に進んでいると思われます。今後も、初年度に築いた全員協働体制を基盤として、目標の早期実現とさらなる飛躍に向けて、教職員一同、力を合わせて頑張っ参りたいと思います。

※なお、取組毎に示した進捗度は、中期目標・計画期間(6年間)に対する2017年度末(2年間)の進捗状況を各担当理事が自己評価して図示しました。

2018年6月 宇都宮大学長 石田朋靖

.....

「戦略①地域の知の拠点形成」: 地域デザイン科学部では、「地域プロジェクト演習」の開講準備を精力的に行い、11の自治体、28の地域プロジェクトパートナーの協力を得て、本年4月からの授業実施を万全な体制で迎えることができました。学生の現実社会での実践力習得に期待したいと思います。本学の地域連携機能を強化する拠点づくりについては、当初計画から2年前倒しで「地域創生推進機構」を本年4月に設置しました。社会人の学び直しプログラムの充実など新規事業の実施・計画が着々と進んでいます。第3期の重要課題である新たな大学院組織の設置については、「地域創生科学研究科」の設置構想をまとめ、2018年3月に設置計画書を提出しました。2019年4月開設に向けて準備を進めています。

「戦略②地域人材育成の基盤強化」: アクティブ・ラーニングは、昨年度に引き続き理論や方法への理解度向上に取り組んだ結果、2018年度の開講科目は、基盤教育科目・専門教育科目のほぼ全てでアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業として開講されることとなりました。教育方法の改善に向けた取組を推進・支援し、教育の質保証を担う組織として、「大学教育推進機構」を2018年4月に設置しました。学生の教育に関する満足度向上を目指していきます。新たに立ち上げた「宇都宮大学3C基金」は、多くの方々からのご寄付により予想を超える受入額となりました。設置初年度から新たな学生支援事業を展開しています。

「戦略③グローバルリーダーの育成」: 海外の大学との交流協定締結は着実に数を増やしました。タイ・カセサート大学には初の海外サテライトオフィスを開設し、両校の学生交流の更なる推進が期待されます。高大連携事業には1,500名を超える参加があり、過去最多となりました。中でも、グローバルサイエンスキャンパス事業では、受講者が学会賞受賞などの高い研究成果を上げています。これに加え中高一貫校との中大連携事業も展開し、1,000名を超える参加がありました。

「戦略④地域イノベーションの創出」: 2016年度の予算措置によって整備を進めてきた「ロボティクス・工農技術研究所(通称:REAL)」がこの3月に完成しました。REALでは、ロボティクスによる実証技術の開発に取り組み、地域イノベーションの創出拠点としての役割を積極的に果たしていきます。若手教員が取り組んだ新たな植物機能の解明等の研究が成果を上げ、世界トップレベルの評価をいただきました。今後更なる研究の進展が期待されます。

「戦略⑤ガバナンス改革」: 宇大版テニュアトラック制度の導入など、柔軟な人事制度によって優秀な若手教員や女性教員の積極的な登用を進めました。教育プログラムの質保証と各学部の自主的な運営を後押しする新たな内部質保証システムによる部局評価を実施し、各学部の取組・成果に応じたインセンティブ経費の配分を行いました。各学部には引き続き独創性と個性の伸長に取り組んでいただき、それに対するバックアップを行っていきたく思います。教員についても、自己研鑽型の新教員評価制度を1年かけて構築し、頑張っている教員を報奨する制度を設けました。教員一人ひとりの意欲と成果の向上に結びつくよう適切な運用に努めて参ります。

構想の概要：「地域の“知”を創造し変革をリードする」（地域の発展を支える大学）

私たちが目指すもの＝4つのVision

- Vision 1 行動する知性を備えた人材を養成します
- Vision 2 異分野を融合した柔軟な発想で新たな知を創造します
- Vision 3 地域の強みを発揮するイノベーションを創出します
- Vision 4 構成員一人ひとりの個性を活かした協働を進めます

Visionを達成するため、第3期中期目標・中期計画期間（平成28～33年）では次の5つの重点戦略のもとで施策を進めます

戦略① 地域の知の拠点形成

新学部「地域デザイン科学部」（H28年度設置）を核として、地域の強み（地域資源・地域特性）を活かしたまちづくりを支える専門職業人の育成や地域との共創機能を強化することによって、地域の地の拠点を形成する。

取組 A 地域課題解決機能を強化し地域の知の拠点形成のために、**新学部「地域デザイン科学部」**を設置

取組 B 地域開発に貢献する高度専門職業人を育成するために、**新大学院組織**を設置

取組 C 地域との共創機能やシンクタンク機能を強化するために、「**地域連携戦略機構**」を設置：**COCの更なる発展**

戦略② 地域人材育成の基盤強化

行動的知性と実践的専門性を兼ね備え、3C精神（Challenge Change Contribution）を持って、地域において新たな価値の創造を支えることができる人材を育成する。

取組 D アクティブ・ラーニングと体系的学修評価による教育の質向上サイクルの確立のために、「**大学教育推進機構**」を設置：**APの更なる発展**

取組 E 人づくりの基盤：**教職大学院**を核とする学校教育の質向上への貢献

取組 F 地域イノベーションを支える専門職業人の育成

戦略③ グローカルリーダーの育成

地域のグローバル化や地域からのグローバル化に対応する人材育成とともに、高大連携の拡充により次世代の地域リーダーを育成する。

取組 G グローバルな視点を持って地域に貢献するグローバルリーダーの育成強化（**大学英語教育学会賞受賞プログラム**や「**トビタテ！留学JAPAN：地域人材コース**」等の活用など）

取組 H 次代の地域リーダーの育成：**グローバルサイエンスキャンパス**等高大連携事業推進

戦略④ 地域イノベーションの創出

－強みと特長を有する研究の戦略推進－

地域志向研究を活性化して、新産業の創出や既存産業の高付加価値化に結びつく地域イノベーションを創出する。

取組 I フードサイエンス、ものづくりにおける融合的イノベーションの創出：**地域イノベーション戦略推進地域支援プログラム**を核とする農工融合分野研究プロジェクトの推進

取組 J 世界に通じる先端的研究の開発・推進：**光工学研究**の国際ネットワーク形成（H27年度、**先端光工学専攻設置**）、国際的優位性を創出する**フードサイエンス**

戦略⑤ ガバナンス改革

学長のリーダーシップの発揮と教職員の意識改革に資するガバナンス改革、ならびに多様で優秀な人材の確保・活用による教育研究の活性化に資する人事・給与システム改革を行う。

取組 K 教員組織の一元化（**教教分離**）や大学運営を的確にマネジメントする「**大学教育推進機構**」の設置などのガバナンス機能の強化

取組 L 年俸制の拡大、クロスアポイントメント制度の導入、業績給の設定、女性教員採用特別制度などによる多様な人材の確保

戦略別進捗度と特徴的な取組・成果

施策		進捗度	20%	40%	60%	80%	100%
戦略① 地域の知 の拠点形 成	新学部「地域デザイン科学部」でくまじづくりのプロを養成		新学部開設、地域デザインセンター設置	地域系科目の充実			
	地域との共創機能強化のために「地域連携戦略機構」を設置		機構組織の検討	地域創生推進機構設置(H30.4)			
	地域活性化の中核的拠点の高度化を目指して「新大学院組織」を設置		構想検討・案決定	設置計画書提出			
	地域における生涯学習拠点としての機能強化		宇大未来塾設立決定	宇大未来塾開講・一期生輩出 UUカレッジ開講決定			

地域デザイン科学部 コア科目の始動

3年次必修科目「地域プロジェクト演習」開講(H30)に向け栃木県内11の自治体で28の地域プロジェクトパートナーを選定



「地域プロジェクト演習」の始動 H30.4.18下野新聞

地域創生推進機構

平成30年4月設置

地域デザインセンター

ミッション:地域(地方自治体等)と連携し①共創的実践活動やフィールド教育②地域が抱える課題解決

- 地域と連携した教育活動(地域プロジェクト演習、地域フィールドツアー等)
- 連携プロジェクト推進
- 協働研究促進(自治体等との協働研究、コーディネート)
- 地域コンサルティング相談

宇大アカデミー

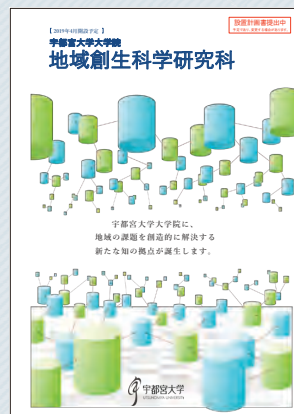
ミッション:社会人や一般市民等を対象にした学び直しを推進

- 宇大未来塾(社会人を対象にした学び直し)
- UUカレッジ(市民個人の興味に沿ったオーダーメイドの体系的学び)
- 多様な生涯学習プログラム

産学イノベーション支援センター

ミッション:産官学連携を基盤にして地域イノベーションの創出を支援・推進

- 地域と大学を結び機能と共創機能の強化、外部機関との共同研究等の活性化
- 研究成果の活用促進
- 知的財産の保護・活用等
- 研究環境の維持・向上



第2回地域デザインセンターシンポジウム



宇大未来塾第一期生(24名)修了式

新大学院
「地域創生科学研究科」
設置申請
2研究科3専攻:
16学位プログラム
↓
平成31年4月設置予定

施策		進捗度	20%	40%	60%	80%	100%
戦略② 地域人材 育成の基 盤強化	アクティブ・ラーニングと体系的学修評価による学びの質の深化		AL拡充、学修到達度可視化システム整備	大学教育推進機構設置(H30.4)・AL推進			
	地域イノベーションを支える専門職業人の育成		実務家による講義の拡大	地元インターンシップの推進 地域に関する実践的科目拡充			
	学生の多様なニーズへの対応と支援体制の充実		多様な支援策の推進	就職支援・経済支援・活動支援の推進・拡充			
	教職大学院を核とした学校教育の質の向上への貢献		教職大学院のノウハウを県の教員研修に適用	学校ボランティアの推進			

大学教育推進機構設置 (H30.4)

運営体制・ミッション

「大学教育推進機構」1センターと2部門を設ける

基盤教育センター

ミッション:幅広く深い教養や行動的知性及び専門基礎等から、3C精神を持った人材育成の基盤を教育

教学IR部門

ミッション:入試から就職後までの情報収集・分析等から、教学に関する意思決定・大学運営を支援

FD部門

ミッション:本学の教育理念・目標を実現するために、教職員・学生の協働による授業改善など教育の質保証を支援

基盤教育の開発・実施

- 基盤教育の企画・運営
- EPUUの開発・実施
- 教養教育の開発・実施
- 専門導入教育の開発・実施など

調査・分析・診断

- 教学に関するデータ(定量・定性)の共有化、分析(学部比較など)
- 学修の成果・評価に関する調査・分析など

治療・開発・改善

- FDの開発と実施1(組織改善・改革:全学FDの企画等)
- FDの開発と実施2(教員の質向上:教員研修プログラムの開発等)など

教育院:教育プログラムのマネジメント

- 学部・学科、研究科・専攻に学生が所属する
- 学部・学科、研究科・専攻を単位として教育プログラムを実施する

継続的で効果的なPDCAを実現

点検・評価委員会

アクティブ・ラーニング(AL)の推進

- ①ALに関する教員研修プログラム受講率の増加
研修会19回開催(全学・各学部)⇒H29受講率:87%(H28:68%)
- ②AL科目開講率の増加
研修会&マニュアル&ティップス集拡充+AL要素表作成・周知
⇒H29開講率:99%(H28:44%)
- ③学生のAL科目受講率(基盤教育科目)の増加
⇒H29受講率:92%(H28:90%)

地元インターンシップの推進・高度化

- ◇受入先の開拓・増増
H27:88社⇒H28:102社⇒H29:104社
 - ◇説明会の早期開催・参加者増加
H28:78名⇒H28:94名
 - ◆インターンシップ参加者の増加
H28:125名
⇒ H29:160名
- このうち8グループ25名(H28:20名):
より高度な 課題発見・解決型インターンシップに参加
- 2単位付与

実務家による講義の拡充

H28:157科目 → H29:175科目

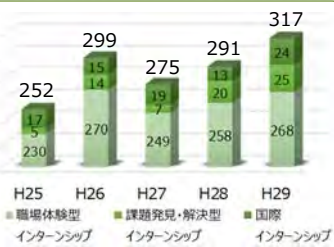


(株)TKCと本学が人材育成に関する連携協定を締結 H30.4.4下野新聞

地域に関連する実践的科目の充実

H28:13科目 → H29:43科目

インターンシップの推進



「宇都宮大学3C基金」の設置

H29.4スタート:目標額3億円
H29末現在:2.2億円(目標額の74%)

基金による新たな学生支援事業

- ◇飯村チャレンジ奨学金
チャレンジ精神を持つ経済的理由により修学が困難な学生を支援
→ H29:12名、総額4,320千円支給
- ◇入学応援奨学金
栃木県在住の生徒が出願前に申請して選考を行い、入学をもって支給する予約型
→ H29:10名、総額3,000千円支給
- ◇大学院生研究奨励金
文系学生に対し学会発表、各種調査経費等を支援
→ H29:19名、総額977千円支給

就職支援の充実

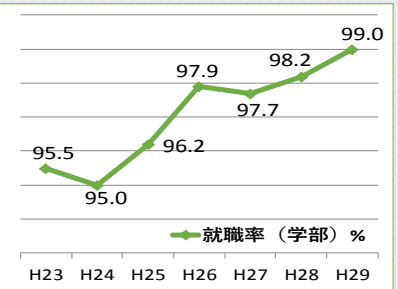
就職対策講座等の開催

- ◇就職対策講座・セミナー:19回
 - ◇就職ガイダンス:12回
 - ◇適正テスト・模擬テスト:5回
 - ◇合同企業等説明会:3回
 - ◇各種説明会・報告会:3回
 - ◇企業見学・就活ツアー:2回
- 延べ44回

高い就職率を維持



支給による成果 H30.3.15下野新聞



戦略③ グローバルリーダーの育成	施策	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
地域に貢献するグローバルリーダーの育成強化	次代を担う地域リーダーの育成	海外留学拡大	外国人留学生受入拡大・国際学部改組			
		高大連携の推進	GSC事業による成果・中大連携事業に発展			

国際交流協定校の拡大

- ◇大学間交流協定
・4校:サラク大学(マレーシア) 他 H29新規6校 総数73校
- ◇部局間交流協定
・2校:ジョモ・ケニヤッタ農工大学(ケニア:農学部) 他

渡航リスクの軽減

- ◇危機管理サービスの導入
- ・海外危機情報の提供
- ・危機対応支援(情報収集、救援活動、関係者現地派遣等)

グローバル人材育成プログラムの推進

- ◇参加者の増大
H27:76名⇒H28:65名⇒H29:160名



とちぎグローバル人材育成プログラム派遣者報告会でアンケートをとる上野 参観完議員

海外サテライトオフィス開設

- ◇タイ・カセサート大学(1993年大学間交流協定締結)にサテライトオフィスを開設⇒特命教授1名配置

とちぎグローバル人材育成プログラムによる派遣

- ◇基礎コース(短期)34名、上級コース(トビタテ!留学JAPAN地域人材コース)2名

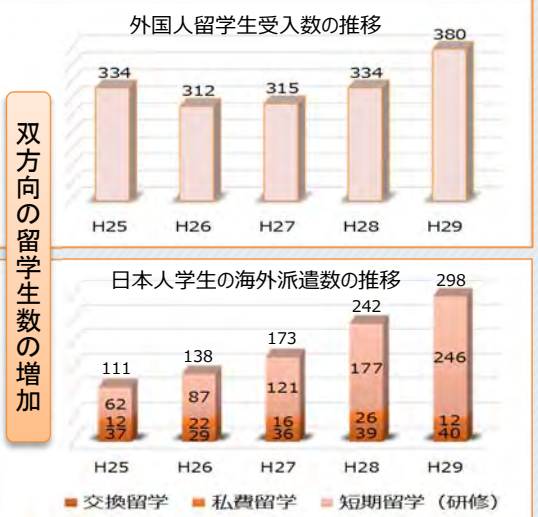
高次の高大連携

- <グローバルサイエンスキャンパス(GSC) 事業>
「君が未来を切り拓く～宇大の科学人材育成プログラム～」(H27～H30)
・基盤プラン:61名採用 ・才能育成プラン:新規20名採用(継続含め30名受講)

◇受講者の研究成果

- ①「第15回高校生生科学技術チャレンジ(JSEC2017)」で花王特別奨励賞を受賞
- ②第15回国際放散虫研究集会(INTERRAD XV in Niigata)最優秀ポスター発表者として表彰(17歳でのINTERRADでの受賞は史上初)
- ③アイルランド国立大学ダブリン校理学部物理学にて、ワークショップに参加し、ポスター研究発表
- ④第61回日本学生科学賞栃木県展覧会優秀賞を受賞
- ⑤日本生物学オリンピック2017本選にて敢闘賞を受賞
- ⑥日本植物学会第81回大会にて優秀賞を受賞
- ⑦物理チャレンジ2017で、銅賞&第一チャレンジ実験優秀賞を受賞

INTERRAD XV in Niigata 最優秀ポスター発表者表彰



高大連携の推進・発展

- ◇グローバルサイエンスキャンパス(GSC) 事業、スーパーサイエンスハイスクール(SSH) などの高大連携事業を推進
- ・延べ参加者 H29:1,539名 H28:1,074名
- <内訳>GSC:431名,SSH:222名、バйтеク講座:191名,サイエンスキャンパス:251名,農業高校との連携講座:95名,アグリカレッジ:33名,その他:316名

- ◇栃木県における中高一貫校の開校に伴い、より早い段階から大学の理数科学教育に触れる機会を持つため中大連携事業を展開 H29:1,138名参加



バйтеク体験講座(夏休み期間中に延べ8日間開催)

戦略④ 地域イノベーションの創出	施策 農・工・融合的イノベーションの創出 世界に通じる先端的な研究開発推進と研究支援体制の強化	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
		学内資源の戦略的配分 連携プロジェクト推進		ロボティクス・工農技術 研究所(REAL)の整備		
		多様な研究支援策推進		研究成果への結実		

ロボティクス・工農技術研究所の整備 (Robotics, Engineering and Agriculture-technology Laboratory: REAL)

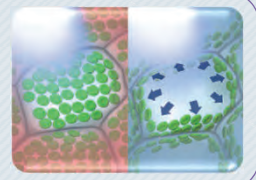
宇大の独自技術を核として新産業の創出を目指す拠点施設

- ①「超鮮度維持輸送」技術
- ②「人視感覚カメラによる色解析」技術
- ③「磁気ナビゲーション」技術
- ④「花粉レベルの新品種開発」技術



若手教員の革新的研究成果

世界初の解明
◇植物が低温を感じる仕組みを解明
児玉豊准教授の研究グループによる研究成果が米国科学アカデミー紀要「Proceeding of the National Academy of Sciences USA (PNAS)」に掲載



先行整備のイノベーションファームでの農業支援システム開発

3つの自走ロボットの協調システム

- イチゴ育成管理ロボット
- イチゴ自動収穫ロボット
- イチゴ運搬・集荷ロボット

H30.3.6下野新聞

◇植物の乾燥耐性を効果的に向上させる人工化合物を発見
世界で影響力の高い科学者「Highly Cited Researcher 2017」に岡本昌憲助教が選出

クラリベイト・アナリティクス・ジャパンから選出証明書を受け取る岡本助教(左から2人目)

若手研究者(大学院博士課程学生)の育志賞 本学初受賞

◇第8回日本学術振興会育志賞を本学の大学院生として初受賞
『ホログラフィックレーザー・描画型ボリュームディスプレイ』
大学院工学研究科博士後期課程 熊谷幸汰氏

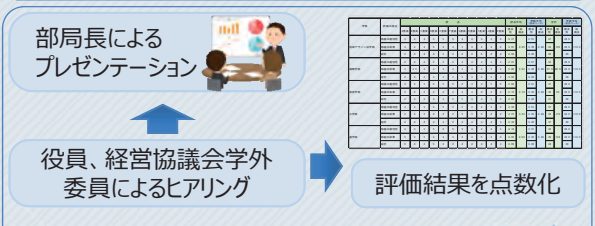
国際的に著名な学術誌への掲載論文数

第2期平均	H28	H29	第2期平均	H28	H29
154件	191件	200件	176件	213件	214件

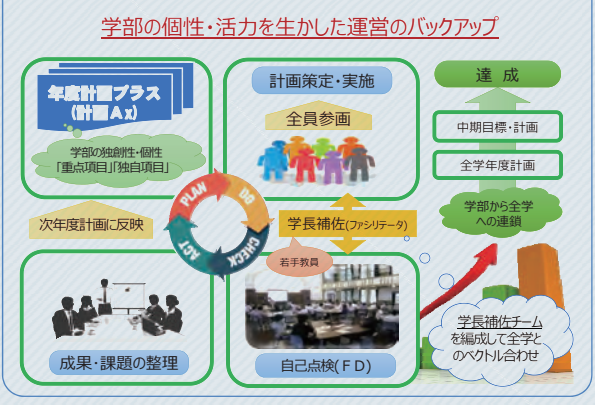
連携プロジェクト件数の推移

戦略⑤ ガバナンス改革	施策 ガバナンス機能の強化と組織運営改善の迅速かつ戦略的实施 多様で優秀な人材の確保と開かれた研究環境の創出	進捗度				
		20%	40%	60%	80%	100%
		教教分離開始、学長補佐体制・監事機能強化		新内部質保証システムによる部局評価		
		女性・若手教員増加 年俸制拡大		宇大版テニュアトラック制度 導入・新たな教員評価制度構築		

新たな内部質保証システムによる部局評価

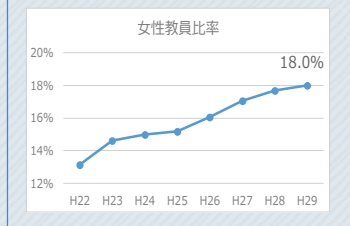


インセンティブ経費(学部等機能改善経費)の配分
総額:24,000千円(学長戦略経費の12.6%)



柔軟な人事給与制度

宇大版テニュアトラック制度
すべての准教授、講師、助教の採用にテニュアトラック制度を適用
採用⇒中間審査(3年以内)⇒最終審査(4年目)⇒テニュア教員(5年経過)
本制度による採用実績
H29:助教9名(うち2名女性)
女性教員採用特別制度
学長戦略経費による経費支援
本制度により女性教員1名採用



年俸制の拡大:H29新規採用教員13名中10名に適用(比率:12.9%・目標10%)
クロスアポイントメント制度の学内規程整備

新たな教員評価制度の構築

試行評価の実施・意見の集約
↓
教員評価指針等関連規程の整備
評価結果を処遇に反映する仕組みの導入
H30新制度による評価の実施

教員評価調査

教員評価指針等関連規程の整備

宇都宮大学概要

理念・基本姿勢・スピリット

- 理念
『人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する』
- 基本姿勢
『“地域に学び、地域に返す、大学と地域の支え合い”という姿勢を大切にし、「地域の知の拠点」として変革をリードする』
- スピリット
『～明るい未来を開拓するために～主体的に挑戦し（Challenge）時代の変化に対応して自らを変え（Change）
広く社会に貢献する（Contribution） 宇大スピリット＝3C精神』

基礎データ

- 入学定員（単位：人）

学部	入学定員	研究科	課程	入学定員
地域デザイン科学部	140	国際学研究科	博士前期課程	30
国際学部	90		博士後期課程	3
教育学部	170	教育学研究科	修士課程	25
工学部	315	工学研究科	専門職学位課程	15
農学部	195		博士前期課程	212
合計	910		博士後期課程	30
		農学部研究科	修士課程	71
		合計		386

- 在籍者数【H30.5.1現在（単位：人）以下同じ ※留学生（正規生）数は在籍者数の内数】

学部・研究科	課程	在籍者数（うち女性）	女性比率	留学生数（うち女性）
学部		4,071（1,629）	40.0%	59（28）
研究科	修士課程 博士前期課程	742（159）	21.4%	99（53）
	専門職学位課程	33（16）	48.5%	
	博士後期課程	92（20）	21.7%	
合計		4,938（1,824）	36.9%	158（81）

- 進路状況【H29年度 学部卒】

区分・員数				合計
進学（大学院・その他）				330
就職	製造	106	情報通信	43
	教員	96	建設	27
	公務員	111	金融・保険	36
	サービス	73	運輸・郵便	19
	卸・小売	44	その他	46
その他				31
合計				962

- 教職員数

区分	員数
役員（非常勤監事2を含む）	7
大学教員	342
附属学校教諭	84
事務系職員	208
合計	641

- 就職率（学部卒）

H30.3卒	H29.3卒	H28.3卒
99.0%	98.2%	97.7%



国立大学法人 宇都宮大学【学長：石田朋靖（第20代・21代）】
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350【JR宇都宮駅～南東2.2km】
宇都宮大学設置【1949年（昭和24年）5月31日 国立学校設置法】：創立69年（2018.5.31）
国立大学法人宇都宮大学設置【2004年（平成16年）4月1日 国立大学法人法】

－地域に学び、地域に返す、大学と地域の支え合い－

<宇都宮大学のモットー>



国立大学法人

宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

平成30年6月

ACTION PLAN 2016 2017年度成果報告書

お問い合わせ先

宇都宮大学企画広報課 ☎028-649-5008

e-mail: khyoka@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp